

2025 年度 事業報告

1. 概況

2025 年度の助成事業において、研究助成金は 1 件 200 万円を 80 名へ、総額 1 億 6,000 万円を交付した。ステップアップ研究助成では、1 件 400 万円を 10 名へ、総額 4,000 万円を交付した。さらに海外留学補助金は、1 件最大 700 万円（165～700 万円）、総額 4,590 万円を 11 名へ交付することを決定した。以上より、助成総額は 2 億 4,590 万円となる。

2025 年度の研究報告会において、最優秀理事長賞（副賞 100 万円／件）を 3 件、竹中奨励賞（副賞 50 万円）を 1 件選出した。

第 2 回ステップアップ研究報告会を、2026 年 2 月 7 日に開催した。

海外留学補助金受領者及び研究助成金受領者からの研究報告を、2026 年 3 月にホームページへ公開した。

2. 運営について

1) 第 1 回定例理事会 2025 年 6 月 7 日開催

第 1 号議案：2024 年度事業報告、収支報告の件 ⇒ 評議員会への上程を承認

第 2 号議案：後任理事・専務理事候補者選任の件 ⇒ 評議員会への上程を承認

第 3 号議案：新任資産運用委員選任の件 ⇒ 承認

第 4 号議案：規定改廃の件 ⇒ 「会計処理規定」及び「会計処理規程細則」については承認、「評議員、役員、学術委員、および資産運用委員の報酬並びに費用に関する規程」及び「研究助成資金規程」については、定時評議員会への上程を承認

第 5 号議案：2025 年度選考委員分担の件⇒ 承認

第 6 号議案：2025 年度定時評議員会招集の件 ⇒ 承認

第 7 号議案：理事長・専務理事業務執行報告の件 ⇒ 承認

第 8 号議案：2025 年度研究助成／海外留学補助金申請状況に関する報告の件 ⇒ 了承

2) 定時評議員会 2025 年 6 月 23 日開催

第 1 号議案：2024 年度事業報告、収支報告の件 ⇒ 承認

第 2 号議案：理事選任の件 ⇒ 承認

第 3 号議案：規定改廃の件 ⇒ 承認

第 4 号議案：2025 年度 第 1 回定例理事会報告の件 ⇒ 了承

第 5 号議案：2025 年度研究助成／海外留学補助金申請状況に関する報告の件 ⇒ 了承

第 6 号議案：今後の財団のありたい姿について ⇒ 意見交換

3) 第 1 回資産運用委員会 2025 年 7 月 10 日開催

第 1 号議案：2025 年度資産運用の件 ⇒ 資産運用案を理事長へ上程することを承認

4) 選考委員会 2025 年 11 月 1 日開催

第 1 号議案：2025 年度研究助成交付対象候補者の件

⇒研究助成金交付対象候補者 80 名へ総額 1 億 6,000 万円、及びステップアップ研究助成交付対象候補者 10 名へ総額 4,000 万円を交付することに

ついて理事会への上程を承認

第2号議案：2025年度海外留学補助金内定候補者・補欠候補者の件

⇒海外留学補助金内定候補者11名、補欠候補者27名について理事会への上程を承認

5) 第2回定例理事会 2025年11月1日開催

第1号議案：2025年度研究助成交付対象候補者の件 ⇒ 承認

第2号議案：2025年度海外留学補助金内定候補者・補欠候補者の件 ⇒ 承認

第3号議案：資産運用報告 ⇒ 了承

6) 第1回定例学術委員会 2026年2月7日開催

第1号議案：2026年度研究助成事業の実施要領の件 ⇒ 理事会への上程を承認

第2号議案：2026年度海外留学助成事業の実施要領の件 ⇒ 理事会への上程を承認

第3号議案：2026年度研究報告会の件 ⇒ 理事会への上程を承認

7) 第3回定例理事会 2026年2月7日開催

第1号議案：2025年度事業報告、仮収支報告の件 ⇒ 承認

第2号議案：2026年度事業計画、収支予算書の件 ⇒ 承認

第3号議案：2026年度研究助成事業の実施要領の件 ⇒ 承認

第4号議案：2026年度海外留学助成事業の実施要領の件 ⇒ 承認

第5号議案：2026年度研究報告会の件 ⇒ 承認

第6号議案：理事長、専務理事の業務執行報告の件 ⇒ 承認

3. 事業について

1) 助成事業

2025年度は、研究助成金へ1,158件、ステップアップ研究助成へ55件、ならびに海外留学補助金へ108件のご応募を頂いた。詳細は表1に記載(p.4)。

2025年11月1日開催の選考委員会および第2回定例理事会の決定に基づき、研究助成金交付対象者80名(内、女性18名、選考委員会後の辞退に伴う1名の繰り上げを含む)に対し、1件200万円、計1億6,000万円を交付した。詳細は表2に記載(p.4～p.6)。

ステップアップ研究助成では、交付対象者10名(内、女性2名)に対し、1件400万円、計4,000万円を交付した。詳細は表3に記載(p.6)。

海外留学補助金では、本財団の助成を受けることを誓約した内定候補者11名に対して経済状況確認の面談を行い、その結果を踏まえて11名(内、女性2名)全員の採択と補助金額を決定した。採択者へは、1件165～700万円、総額4,590万円の交付を決定した。詳細は表4に記載(p.7)。

2) 研究報告会

2023年度 研究助成金受領者等による研究報告会を、2025年11月1日(土)に開催した。

選考委員から各会場で最も優秀な研究であると認められた3件に最優秀理事長賞(副賞100万円/件)を授与した。また、選考委員から将来が期待される若手研究者として最

も多くの推薦を受けた 1 名に竹中奨励賞（副賞 50 万円）を授与した。

発表者の相互投票を基に、選考委員による確認を経て優れた研究発表 3 件を選出し、優秀発表賞（副賞記念品）を授与した。

各褒賞受賞者は、表 5～表 7 へ記載（p. 7-8）。

研究報告会プログラムを p. 9 へ掲載。

2023 年度 ステップアップ研究助成受領者および海外留学補助金受領者によるステップアップ研究報告会を、2026 年 2 月 7 日（土）に開催した。

プログラムを p. 10 に掲載。

3) 助成研究報告

海外留学補助金受領者及び研究助成金受領者からの研究報告を、2026 年 3 月にホームページへ公開した。

表 1. 2025 年度研究助成金等の申請者数および交付対象者数

助成プログラム	申請者数(女性数)	交付対象者数(女性数)	交付金額(万円)
研究助成金	1,158 名(196 名)	80 名(18 名)	16,000(200／件)
ステップアップ研究助成	55 名(6 名)	10 名(2 名)	4,000(400／件)
海外留学補助金	108 名(13 名)	11 名(2 名)	4,590(165-700／件)
総 計	1,321 名(215 名)	101 名(22 名)	24,590

表 2. 2025 年度研究助成金交付対象者一覧

50 音順・敬称略・所属は 2026 年 1 月時点

氏名	所属 (※)	研究テーマ
浅井 理恵子	熊本大学 国際先端医学研究機構	細胞流動による細胞集団力学的左右非対称性メカニズム
浅川 和秀	国立遺伝学研究所 遺伝形質研究系	神経細胞のALS脆弱性におけるDNA損傷応答の役割
小豆島 健護	横浜市立大学 医学部	生活習慣病における皮膚レニン-アンジオテンシン系
阿部 隆一郎	大阪大学 微生物病研究所	見えざる治療抵抗性：抗菌薬不応性の分子メカニズム
生島 芳子	東北大学 医学イノベーション研究所 (SiRIUS)	見過ごされてきた骨髄脂肪による造血制御機構の解明
池田 英樹	千葉大学 大学院医学研究院	ミトコンドリアDNA動態に着目した発がん機構の解明
伊東 伸朗	東京大学 大学院医学系研究科	骨Paget病の病因解明を目指した自己免疫学的検討
井貫 晋輔	徳島大学 大学院医歯薬学研究部 (薬学域)	リポペプチドの機能化によるT細胞制御と創薬応用
井上 貴美子	理化学研究所 バイオリソース研究センター	加齢に伴う卵子変化がもたらす胎盤形成異常の解明
井上 晋一	東北大学 医学系研究科	熱産生脂肪に高発現する新規寒冷誘導遺伝子の解析
今林 慶祐	九州大学 生体防御医学研究所	自己免疫に寄与する病原性記憶B細胞に関する基礎研究
植村 公一	横浜市立大学 医学研究科	抗がん剤による生殖細胞のgenotoxicity評価法の確立
内田 周作	東京科学大学 総合研究院難治疾患研究所	精神疾患症状の多様性を創発する脳内メカニズム解明
馬越 洋宜	九州大学 大学院医学研究院	性差に着目した副腎皮質リモデリング分子機構の解明
遠藤 史人	名古屋大学 環境医学研究所	グリア-神経連関を基盤としたALSのマルチオミクス解析
大神田 淳子	信州大学 学術研究院 (農学系)	飢餓ストレス応答機構の化学ハイジャック
大塚 海	東京理科大学 創域理工学部	”動く遺伝子”制御機構が司る精子形成とゲノム保護機構
大塚 洋一	大阪大学 理学研究科	一細胞質量分析イメージングによる心臓組織の可視化
奥舎 有加	岡山大学 学術研究院医歯薬学域	変異型PTEN結合タンパクを標的とする抗悪性腫瘍薬開発
小栗 靖生	奈良女子大学 研究院	ベージュ脂肪細胞の調節に関わる分子基盤解明と応用
小田 真由美	慶應義塾大学 医学部	肝細胞の細胞自発的な細胞多様性ネットワークの解明
小野田 聡	富山大学 附属病院	乳がん術後リンパ浮腫予防を目指した新しい術式の確立
小野寺 俊晴	大阪大学 医学系研究科	骨髄アディポネクチンによる骨髄分化制御と線維化研究
加塩 麻紀子	熊本大学 生命科学研究部	TRPM2脳温下活性から紐解く脳機能調節
柏木 光昭	筑波大学 国際統合睡眠医科学研究機構	レム睡眠の神経回路の破綻による睡眠障害モデルの開発
勝田 毅	東京大学 大学院工学系研究科	肝星細胞を標的とするデザイナーAAVの創出
河口 理紗	東京大学 大学院薬学系研究科	細胞種特異的非コードRNA予測のための人工知能モデル
河本 新平	東北大学 加齢医学研究所	皮膚細菌依存的な皮膚老化メカニズムの解明
工藤 麗	公益財団法人 がん研究会 NEXT-Gankenプログラム	ホルモン療法耐性乳がんに対する個別化治療の確立
小池 博之	東京科学大学 大学院医歯学総合研究科	若齢肝臓との相互作用による抗老化機構の理解
後藤 哲平	京都大学 医生物学研究所	授乳の求心性神経回路マッピング

表 2. 2025 年度研究助成金交付対象者一覧（続き）

50 音順・敬称略・所属は 2025 年 1 月時点

氏名	所属（※）	研究テーマ
近藤 泰介	慶應義塾大学 医学部	タンパク質翻訳制御による新規CAR T療法の開発
齋藤 るみ子	がん研究会 有明病院	再発制御性腫瘍微生物と免疫応答の解明
佐々木 麻里子	国立がん研究センター 研究所	次世代型標的探索法に基づく膵臓がんの治療標的の探索
佐藤 有紀	京都大学 白眉センター	ヒト三次リンパ組織の誘導機構の解明
繁富 英治	山梨大学 大学院総合研究部医学域	脳梗塞亜急性期のアストロサイトを介した病態制御
柴田 健輔	九州大学 医学部	細菌由来代謝経路遺伝子を搭載したCAR-T療法の開発
島田 龍輝	千葉大学 大学院医学研究院	卵細胞選別機構の理解
白崎 良輔	帝京大学 医学部	がん横断的欠失特異的治療法の確立
新中須 亮	愛媛大学 学術支援センター	SFTSウイルス抗体医薬開発に向けた基盤研究
杉原 康平	大阪大学 免疫学フロンティア研究センター	クローン病の腸内細菌による自然免疫記憶誘導機構
杉本 敦史	大阪公立大学 大学院医学研究科	活性化肝星細胞の脱活性化による肝内胆管癌の新治療法
鈴木 邦道	慶應義塾大学 Bio2Q	シナプスオーガナイザーのin situ構造解析
鈴木 茂樹	岡山大学 医歯薬学域	ラマン分光による歯に眠る幼少期被虐待経験記録の解析
関根 史織	京都大学 大学院薬学系研究科	ミトコンドリアにおける新規鉄感知システムの理解
関谷 元博	筑波大学 医学医療系	メタボリックシンドロームの包括的な治療体系の構築
鷹谷 絢	大阪大学 大学院基礎工学研究科	アルカロイド系医薬品の骨格編集による新薬創製
瀧川 紘	金沢大学 医薬保健研究域薬学系	ホウ素クラスターと天然物の融合によるBNCT薬剤の創成
滝沢 由政	東京大学 定量生命科学研究所	染色体異常疾患に挑むセントロメアの構造解明
多田 真理子	順天堂大学 大学院医学研究科	統合失調症と双極症の神経オシレーション病態解明
谷上 賢瑞	東京大学 アイソトープ総合センター	脂肪滴メチル化制御に基づく膵癌新規治療戦略の創出
谷口 陽祐	岡山大学 学術研究院医歯薬学域（薬学系）	次世代核酸医薬品の高度化に向けた膜透過性分子の創製
常松 貴明	徳島大学 大学院医歯薬学研究部	Y染色体欠失から紐解くがんの共食いの生物学
中西 由光	大阪大学 大学院医学系研究科	コレステロール代謝によるミクログリア老化制御の解明
中溝 聡	京都大学 大学院医学研究科	空間解析から導くサルコイドーシス新規治療標的の創出
鍋倉 宰	愛知県がんセンター 研究所	免疫調節薬によるNK細胞の活性制御機構の解明と応用
根本 哲宏	千葉大学 大学院薬学研究院	光学活性レスベラトロールトリマー類の合成法開拓
Nomura Aneela	理化学研究所 生命医科学研究センター	疲弊体制型CAR-T細胞療法の開発
羽入田 明子	慶應義塾大学 医学部	深層学習を用いた緑内障個別化予防戦略の創出
平野 圭一	金沢大学 医薬保健研究域薬学系	反応種の精密設計に基づくケイ素創薬分子群の大拡張
廣田 圭司	京都大学 医生物学研究所	好中球由来IL-23aの新規機能と制御機構の解明
福永 圭佑	宮崎大学 テンユアトラック推進室	新規RNAアプタマーの探索とRNA-PROTACへの応用
藤原 英晃	岡山大学 大学病院	口腔細菌叢を標的とした難治性肺慢性GVHDの治療法開発
松花 沙織	神戸大学 大学院理学研究科	心臓神経堤細胞からみる心臓の形態的複雑化と再生能
松村 欣宏	秋田大学 大学院医学系研究科	脂肪細胞-精子相互作用による次世代の代謝制御の研究
三木 康生	弘前大学 大学院・医学研究科	多系統萎縮症の超上流変性カスケードの同定と治療
三島 正規	東京薬科大学 薬学部	光操作ツールに資する光センサータンパク質の構造基盤
水沼 正樹	広島大学 大学院統合生命科学研究科	シグナル分子としての代謝物の機能解明
光井 雄一	東京科学大学 大学院医歯学総合研究科	遺伝子多型による糖尿病の疾患感受性メカニズムの解明

表 2. 2025 年度研究助成金交付対象者一覧（続き）

50 音順・敬称略・所属は 2025 年 1 月時点

氏名	所属（※）	研究テーマ
三森 功士	九州大学 別府病院	肝移植後の肝癌再発機構の解明と再発予防法の開発
三宅 崇仁	関西学院大学 生命環境学部生命医科学科	mRNA輸送/翻訳に着目した神経シナプス制御機構の解明
森田 直樹	東京大学 定量生命科学研究所	乳汁IgA抗体が次世代疾患感受性に与える影響の解明
矢野 佳芳	東京慈恵会医科大学 総合医科学研究センター	核内の区画化異常を起点とする運動ニューロン変性機序
箭原 康人	富山大学 学術研究部医学系	病的破骨細胞を征圧する細胞融合療法の創出
山崎 智弘	大阪大学 生命機能研究科	相分離秩序を乱す疾患変異の大規模解読と治療戦略
山野 晃史	東京都医学総合研究所 先端基礎医科学研究分野	タンパク質分解を軸とした代謝ストレス応答
山本 雄介	国立がん研究センター 研究所	Y染色体欠損ライブラリ作製による合成致死因子の探索
横田 貴史	大阪国際がんセンター 血液内科	RNAスプライシング因子の変異と難治性急性白血病
吉村 彩	北海道大学 薬学研究院	ゲノム情報に基づく生物活性天然物の探索
Lee Ming-Liang	生命創成探究センター	中枢インスリンと視床下部の糖感知異常に関する研究

表 3. 2025 年度ステップアップ研究助成交付対象者一覧

50 音順・敬称略・所属は 2026 年 1 月時点

氏名	所属	研究テーマ	交付額(万円)
笠原 朋子	理化学研究所 開拓研究所	転写と老化のテンポを制御する	400
勝山 恵理	岡山大学 学術研究院保健学域	SLEにおけるPARP1依存性細胞死の病的意義	400
河部 剛史	東北大学 大学院医学系研究科	自己抗原反応性「MP細胞」の両面的な免疫制御機能	400
北嶋 俊輔	がん研究会 がんプレジジョン医療研究センター	メチオニン代謝による抗腫瘍免疫制御機構の解明	400
熊谷 尚悟	がん研究会 がんプレジジョン医療研究センター	DLL3陽性がんにおけるがん免疫治療抵抗性克服への挑戦	400
昆 俊亮	東京理科大学 生命医科学研究所	がん細胞によるリンパ管内皮細胞のEndMT誘導機構	400
阪口 雅司	熊本大学 大学院生命科学研究部	脂肪・筋肉活性化による糖尿病・サルコペニア治療開発	400
白川 純	群馬大学 生体調節研究所	個体におけるヒト膵β細胞の機能と量の制御機構解明	400
花岡 健二郎	慶應義塾大学 薬学部・大学院薬学研究科	ねじれ型分子内電荷移動に基づいた蛍光プローブの創製	400
三原田 賢一	熊本大学 国際先端医学研究機構	不死化赤芽球細胞株を用いた稀少血液型血液の生産	400

表 4. 2025 年度海外留学補助金交付対象者一覧

50 音順・敬称略・所属は申請時点

氏名	所属機関（留学前所属）	留学先	交付額（万円）
荒 隆英	北海道大学	IRCCSサン・ラファエレ科学研究所	700
家口 凜太郎	塩野義製薬株式会社	カリフォルニア大学	396
大井 博貴	慶應義塾大学	ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン	400
岡本 明也	京都府立医科大学	テキサス大学	211
川口 健悟	九州大学	ブリガムアンドウィメンズ病院	200
工藤 三希子	九州大学	クイーンズランド大学	400
千菊 智也	東京大学	ハーバード大学	165
長崎 真治	京都大学	ワシントン大学	700
二宮 大悟	東北大学	ライス大学	449
桃井 瑞生	慶應義塾大学	ケンブリッジ大学	269
李 慶賢	順天堂大学	カロリンスカ研究所	700

表 5. 2025 年度最優秀理事長賞受賞者

50 音順・敬称略・所属は受賞時点

氏名	所属機関（受賞時）	研究テーマ
岡田 寛之	東京大学 大学院医学系研究科	サブセルラーシーケンスによる骨粗鬆症創薬シーズ探索
小川 亜希子	東北大学 大学院薬学研究科	RNA修飾を基軸とする新たな医薬品開発に向けて
奥村 正樹	東北大学 学際科学フロンティア研究所	小胞体内新たな区画を標的にした変性疾患の創薬基盤

表 6. 2025 年度竹中奨励賞受賞者

敬称略・所属は受賞時点

氏名	所属機関（受賞時）	研究テーマ
坪山 幸太郎	東京大学 生産技術研究所	人工タンパク質の合理的設計法への挑戦

表 7. 2025 年度優秀発表賞受賞者

50 音順・敬称略・所属は受賞時点

氏名	所属機関(受賞時)	研究テーマ
小川 亜希子	東北大学 大学院薬学研究科	RNA修飾を基軸とする新たな医薬品開発に向けて
奥村 正樹	東北大学 学際科学フロンティア研究所	小胞体内新たな区画を標的にした変性疾患の創薬基盤
土居 雅夫	京都大学 大学院薬学研究科	脳内中枢時計を標的とした生体リズム活性化薬の開発

公益財団法人 アステラス病態代謝研究会 第 55 回 研 究 報 告 会

*日 時： 2025年11月1日（土） 11：00 ～ 18：00

*場 所： 日本工業倶楽部 東京都千代田区丸の内1-4-6
TEL (03) 3281-1711

<総合受付> 2階 開場10：00 ～
10：45までにはご来場ください

発表時間

11：00 ～ 11：10 開会の挨拶

理事長 熊ノ郷 淳 大阪大学 総長

11：10 ～ 11：35 特別講演

講演名 「遺伝統計学による疾患病態解明」

発表者 学術委員 岡田 随象 東京大学 大学院医学研究科 教授
大阪大学 大学院医学系研究科 教授

座長 理事・学術委員会 後藤 由季子 東京大学 大学院薬学系研究科 教授

11：35 ～ 11：53 竹中奨励賞受賞講演

講演名 「抑制性免疫細胞に着目した転移性脳腫瘍の治療開発」

発表者 熊谷 尚悟 国立がん研究センター 研究所 腫瘍免疫研究分野 研究員

座長 理事・選考委員長 徳山 英利 東北大学 大学院薬学研究科 副研究科長・副学部長・教授

研究発表

各会場の詳細プログラムは後述

第1会場 12：00 ～ 16：30	第2会場 12：00 ～ 16：30	第3会場 12：00 ～ 16：30
休憩： 13：21 ～ 13：35	休憩： 13：21 ～ 13：35	休憩： 13：12 ～ 13：26
休憩： 14：47 ～ 15：00	休憩： 14：47 ～ 15：00	休憩： 14：47 ～ 15：00

16：30 ～ 16：45 各賞投票

16：50 ～ 18：00 交 流 会 <褒章受賞者発表>

開会の挨拶

理事・選考委員長 徳山 英利 東北大学 大学院薬学研究科 副研究科長・副学部長・教授

閉会の挨拶

理事・学術委員会 後藤 由季子 東京大学 大学院薬学系研究科 教授

★ご発表者の皆様へ★

- ・総合受付2階大会堂前にてネームカードをお渡しいたしますので、必ずご着用の上、会場にお入りください。
- ・クロークは、1F入口にございます。

＊＊ご発表についてのお願い＊＊

1. 発表時間：7分 質疑応答：2分 時間厳守でお願い致します。
2. 発表時間45分前までには、ご発表用のPC本体またはメディア（USBメモリ等）を3階メディア受付にお持ち頂き必ずファイル動作および文字化け等の確認を行ってください。
3. 前演者の発表開始時には、次演者席にご着席ください。

公益財団法人 アステラス病態代謝研究会 第2回 ステップアップ 研究報告会

*日時： 2026年2月7日（土）13：00～18：15
*場所： 日本工業倶楽部 東京都千代田区丸の内1-4-6
TEL (03) 3281-1711

＜総合受付＞ 3階 12：30までにはご来場ください

発表時間

13:00～13:05	開会の挨拶 理事長 熊ノ郷 淳 大阪大学 総長
13:05～13:35	海外留学帰朝報告
13:35～17:05	ステップアップ研究報告
17:05～17:10	閉会の挨拶 理事・選考委員長 徳山 英利 東北大学 大学院薬学研究科 副研究科長・副学部長 東北大学 大学院薬学研究科 教授
17:15～18:15	交流会

★ご発表者の皆様へ★

- ・総合受付3階中ホール前にてネームカードをお渡しいたしますので、必ずご着用の上、会場にお入りください。
- ・クロークは、1F入口にございます。

＊＊ご発表についてのお願い＊＊

1. 発表時間：海外留学帰朝報告 発表：7分 質疑応答：3分
ステップアップ研究助成 発表：15分 質疑応答：5分
時間厳守をお願い致します。
2. 前演者の発表開始時（20分前）には、次演者席に着席ください。

<法人の運営体制の充実を図るための取り組みについて>

当財団における自主的取り組みを以下に記す。

1. 各機関における審議の活性化とガバナンスの向上

- 各機関においては、専門性の高い外部理事・評議員・監事を選任し、客観的かつ多角的な視点を取り入れている。
- 分かりやすく充実した会議資料を提供することにより、効果的かつ実質的な審議を推進している。

2. 会計管理体制の強化

- 期中における会計中間監査を適切に実施している。
- 経理処理の担当者と承認者を分けるダブルチェック体制を構築し、会計に関する不祥事の予防を強化している。

3. 助成事業からの社会的価値創出の取り組み

- 本財団の「ありたい姿」は助成事業活動を通じた画期的な創薬・治療法の開発・実用化と新たな研究領域の創出である。本活動の強化を ANIC (AFRMD Next-generation Innovators' Challenge) として取り組み、ライフサイエンスを牽引する人材育成と画期的アイデアや萌芽的研究をさらに強力に推進している。
- ANIC に関するアンケート調査を実施し、画期的な創薬・治療法の開発・実用化や新たな研究領域の創出などの社会的課題の解決に向けた定性的・定量的な効果を測定・検証している。

付属明細書

補足すべき重要な事項はありません。すべて事業報告に記載済みです。

以上